

# 公園放射線 MAP 6

## 2015/1 - 9

### 熊谷・行田・羽生・加須

#### 測定公園リスト

頁	市町	測定公園	空間線量	測定日	頁	市町	測定公園	空間線量	測定日
2	熊谷市	スポーツ文化公園	0.076	8/11	9	羽生市	スカイスポーツ公園	0.060	2/24
3		別府沼公園	0.058	8/14			平和公園	0.058	2/28
4		さくら運動公園	0.060	8/22			旭町公園	0.045	2/28
5		中央公園	0.056	8/2			風の公園	0.047	2/28
		東公園	0.059	8/6			前谷公園	0.047	2/28
		万平公園	0.055	8/23			大天白公園	0.046	2/28
		荒川公園	0.064	8/3			山の公園	0.049	2/28
		江南町総合公園	0.049	8/16			大和町公園	0.045	2/28
		妻沼運動公園子ども広場	0.058	8/14	10	羽生水郷公園	0.053	1/19	
		桜リバーサイドパーク	0.056	8/16	11	キャッセ羽生	0.058	2/24	
6	行田市	さきたま古墳公園	0.052	1/11	12	加須市	騎西総合公園	0.056	4/16
7		古代蓮の里	0.052	2/14			田ヶ谷サン・スポーツランド	0.051	4/12
		行田総合運動公園	0.055	1/24	13		環境科学国際センター	0.057	4/12
8		水城公園	0.060	8/13			大利根運動公園	0.060	3/21
		見沼元坎公園	0.066	8/13			加須未来館	0.052	3/21
							ふれあい公園	0.055	3/21
					14		はなさき水上公園	0.053	3/14

\*単位は  $\mu\text{Sv/h}$ 。■内は5cm高の測定、他は50cm高の測定。

**測定高について** 測定の高さが5cm、50cmと不統一になっています。これはホットスポットの発見をより確実にするため、2015年4月より5cm高での測定に改めたためです。HSF市民測定所は、今の安全の確認が最優先と考えています。0.06  $\mu\text{Sv/h}$  前後の公園では50cm高の値に、係数1.1をかけると5cm高の値とほぼ同じ数値になります。

### HSF市民測定所・深谷について

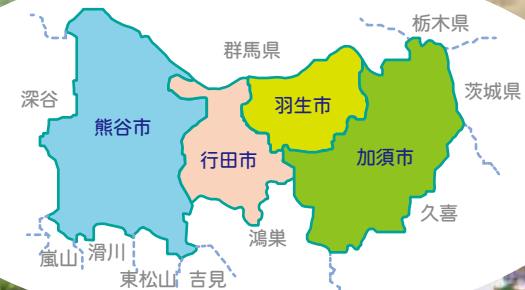
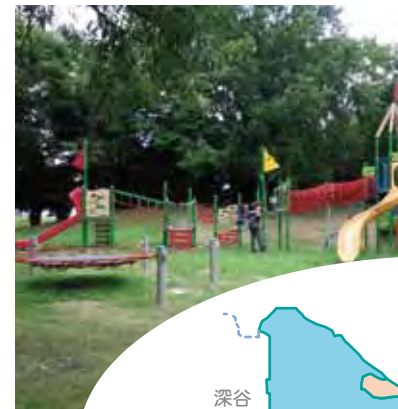
子どもたちを放射線から守りたいと願う市民グループによって、2013年秋に設立されました。高性能なGPS連動型放射線測定器（HSF）を用いて、埼玉県の子どもの集まる場所を中心に、空間線量を測定し、これを見える形で公表します。

▶公開ホームページ：<http://hsfnet.jimdo.com/>

- ◆発行：HFS市民測定所・深谷
- ◆連絡先：電話 090-9829-8558 〈小泉〉
- ◆メール：[hfs@kzmj.sakura.ne.jp](mailto:hfs@kzmj.sakura.ne.jp)
- ◆配布：3・11市民ネット深谷
- ◆ホームページ：<http://fukaya311.jimdo.com/>



非売品



## HSF 放射線見える化プロジェクト埼玉

《放射能汚染の現状を示す指標 東エリア舗装面と接する芝地にセシウム濃縮》

約 100ha におよぶ県内最大級のスポーツ公園です。ラグビー場、陸上競技場、ドーム（現在屋根を修理中）などの施設の他、何箇所もある多目的広場やピクニック広場などがあり、駐車場も 2,800 台と簡単に測定できる広さではありません。最初に造成された西側エリアは、敷石として多用している花崗岩からの放射線が測定値を押し上げています。ウレタンのジョギングコース（約 4.5km）は、市内の同様コースに比べて若干高めでした。公園の東側エリアでは、ホットスポットを何箇所



1 ジョギングコース（ウレタン舗装）



2 ラグビーボールオブジェ（花崗岩）

箇所を何箇所も発見しました。直ちに管理事務所を通じ、県に除染をお願いしました。放射能は、時間の経過とともに低減します。しかし、逆に濃縮が進むところもあり、簡単には消えてくれません。福島原発事故から 4 年半、熊谷の放射能汚染の現状を指し示す公園といえるでしょう。



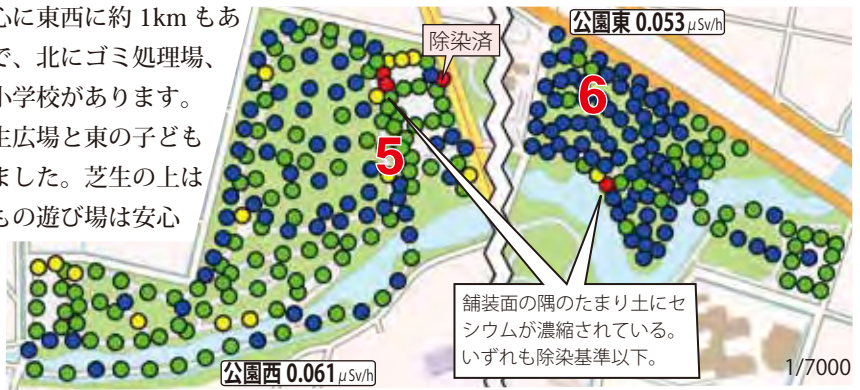
測定データ 日時：2015 年 8 月 8 日（曇り）、8 月 9 日（晴れ）、8 月 11 日（晴れ）、9 月 13 日（曇り）、9 月 21 日（晴れ）  
 方法：移動測定＝地上 5cm 高、定点測定（60 秒間の平均）＝50cm 高、5cm 高

《芝生広場・こども広場は OK！ 駐車場のスミに注意》

別府沼を中心に東西に約 1km もある細長い公園で、北にゴミ処理場、東側には別府小学校があります。今回は西の芝生広場と東の子ども広場を測定しました。芝生の上は低線量で子どもの遊び場は安心レベルです。

大人に人気のウレタン舗装のウォーキングコースは少し高めです。また、西の駐車場の隅のたまり土からは、除染基準 0.23  $\mu\text{Sv/h}$  超のポイントが見つかり、熊谷市が除染を行いました。

深谷パティオと同じく、ゴミ焼却場の巨大煙突の下の公園です。放射能だけでなく煙突から吐き出される有害物質の影響も気になります。



5 西側ウォーキングコース（ウレタン舗装）



6 大型ローラースペリ台（芝生）



測定データ 日時：2015 年 8 月 14 日 10:00 ~ 12:00、14:30 ~ 16:00 天気：曇り 南東の風 1.5m  
 方法：移動測定＝地上 5cm 高、定点測定（60 秒間の平均）＝50cm 高、5cm 高

**$\mu\text{Sv/h}$  という単位について** 一般に空間線量は  $\mu\text{Sv/h}$ （マイクロシーベルト / 時）、食品や土壌は Bq/kg（ベクレル / キログラム）が用いられます。空間線量の除染基準は 0.23  $\mu\text{Sv/h}$ 、食品は 100Bq/kg 以下が国の基準です。福島第一原発事故から 4 年半が過ぎて、この基準を緩和しようという動きがありますが、私たちはこれに強く反対します。

**放射能とは** 本来は放射線を放出する能力のことです。放射線には  $\alpha$  線、 $\beta$  線、 $\gamma$  線とありますが、この冊子の数値は  $\gamma$  線の測定値です。 $\gamma$  線の中で問題となるのは原発事故由来のセシウムですが、この測定値には自然放射線の値も含まれています。測定データを分析して、明らかに自然放射線の影響と思われる場合は、説明をつけています。

《 子供広場・芝生の上は低線量、 駐車場脇の土砂だまりに注意！ 》



縮尺 1/5000  
線量区分  
0.10  
0.08  
0.06  
( $\mu\text{Sv/h}$ )  
除染基準以下



1 子供広場 遊具わき(砂・土) 2 ジョギングコース(ウレタン舗装) 3 野球場隣の駐車場フェンスぎわ(土)

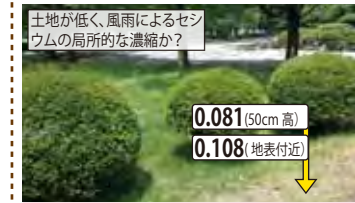
測定データ 公園南側: 2015年8月19日 午前16:20~18:00/天気:曇り 南東の風2~3m 地上5cmを測定  
公園北側: 2015年8月22日 午前15:40~18:00/天気:晴れ曇り 東の風1~2m 地上5cmを測定

**人工放射能と自然放射能** 原発事故で放出されたのは人工放射能、自然界にもともと存在しているものが自然放射能です。みかげ石等の石材・レンガ・碎石の上で計測される高い放射線はほぼ自然放射線と考えられますが、土や芝生の場合にはセシウムの濃縮の可能性が高いようです。HSFは、スペクトル表示で簡易的にセシウムの有無がわかります。

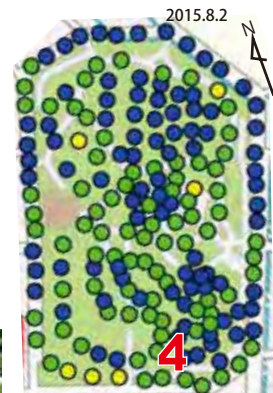
《 市内公園はほぼ安全レベルだが、セシウムは移動と濃縮を繰り返す 》

中央公園 0.056  $\mu\text{Sv/h}$

旧富士見中学校の跡地に造られた公園です。最近、子ども遊具を改修新しいものに変えたのですが、残念ながら空間線量はそれほど下がっていませんでした。一般的に放射能汚染の濃淡に地域差はありますが、結局は半減期でしかきれ



4 噴水公園下西側小道(土と芝)

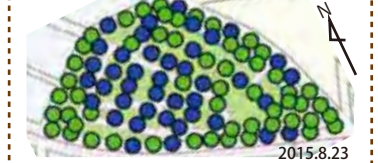


いになってくれないという事です。現在でもセシウムは移動と濃縮を繰り返しています。

東公園 0.059  $\mu\text{Sv/h}$

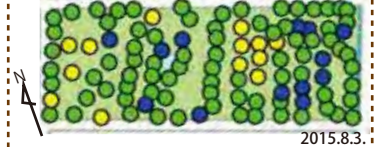
空間放射線量は熊谷市の平均レベル

万平公園 0.055  $\mu\text{Sv/h}$



3.11以降に改修整備、千年桜周辺及び芝生広場はクールスポット。

荒川公園 0.064  $\mu\text{Sv/h}$



熊谷市の平均的な空間線量より若干高めです。中でもトイレの南方面のグラウンドの一部が高く、反対に公園の北西に設置されている子ども遊具は、低い線量となりました。

江南総合公園 0.049  $\mu\text{Sv/h}$



妻沼運動公園子ども広場 0.058  $\mu\text{Sv/h}$

ふわふわドーム、ローラースベリ台、小さな子どもに人気の公園、遊具の周辺の空間線量は安心レベル。

測定データ 日時: 2015年8月2日~8月23日  
方法: 移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

桜リバーサイドパーク 0.056  $\mu\text{Sv/h}$

大里地区にあるこの公園は、大型スベリ台、水遊び場、バーベキューと充実しています。小さいけれど、実におもしろい公園です。放射能も全く問題なし。

**自然放射線なら安全か?** 自然界には、もともと放射性物質が存在します。野菜や果物、豆類に多く含まれるカリウム40が有名ですが、みかげ石や素焼きレンガの一部からはウラン由来の放射線が測定されます。京大助教の今西哲二さんは「自然放射線は危ないものであり、それに加えて人工放射線も浴びていると考えるのが妥当」と述べています。

《 広大な施設だけど、どこも安心スポット 》

非常に広大な公園で2日間かけて測定しました。右の地図の●は0.06  $\mu$ Sv/h未滿、地図上では、この色が最も多く、園内で心配になる値はほとんど測定されませんでした。地図中の●●は、大半が石材(花こう岩等)やアスファルトで舗装され



た部分で、駐車場やウォーキングやウォーキングコースになっています。周囲の土の地面や芝生地よりもやや高い数値になっていますが、自然放射線の影響だと考えられます。



1 稲荷山古墳頂上 (芝生・土)



2 二子山古墳看板前 (芝生・土)

この公園は、私たちが測定したかぎりでは、子どもたちを安心して遊ばせられる場所だと思います。

測定データ 日時：2015年1月11日 10:30～17:00 / 天気：北西～南東の風1～2m / 地上50cmを測定  
 日時：2015年1月12日 11:00～12:00 / 天気：北西の風6～8m / 地上50cmを測定

**ホットスポットとクールスポット** 環境省は、空間線量率0.23  $\mu$ Sv/h以上を除染基準とし、原発事故前を0.04  $\mu$ Sv/hとしています。本冊子はこれに基づき、0.23  $\mu$ Sv/h以上の場所をホットスポット、0.04  $\mu$ Sv/h以下の場所をクールスポットとします。空間線量率は測定する高さによって値が変わりますが、本冊子は5cm高での測定を基準とします。

《 子ども遊具周辺は低空間線量で安心 》



埼玉古墳群から東に約2kmのところにある古代蓮の里は、名称の通り約10万株の古代蓮をメインにした大規模公園で、HPによると年間約16万人が訪れるそうです。この日も強風の中、子どもを遊ばせているファミリー、散歩している人、釣り人そしてカップルとたくさんの人たちが訪れていました。空間線量の総移動平均は、0.052  $\mu$ Sv/hでした。子ども遊具周辺は、0.042  $\mu$ Sv/hと低い値でした。全体的によく整備され清掃も行き届いた公園です。



3 蕨オブジェ中央 (芝生)

行田総合運動公園

国道125号バイパスに接する行田総合運動公園は、16.4haと想像していたより広く多目的な用途に使用されています。ギュギュッと凝縮されたような子ども広場は、たくさん子どもたちで賑わっていました。空間線量は公園全体でもそれほど高くはありませんが、その中でも子ども広場の線量は低く安心できる数値でした。



4 子ども広場コンビネーション遊具前 (芝)

測定データ 古代蓮の里 : 2015年2月14日 14:00～16:00 / 天気：晴れ北西の風8m 方法：地上50cm高を移動測定  
 総合運動公園 : 2015年1月24日 14:00～16:00 / 天気：晴れ無風 方法：地上50cm高を移動測定

**ホットスポットの見つかる場所** 広いアスファルトの駐車場の縁、雨水がたまり易い場所をよく見つかります。たいいてい粘土質の土が溜まっています。また排水のU字溝の底の汚泥をさらって積み上げた場所。草地や芝地でも、中央よりは縁、全体的に土地が低くなっている所で見つかることがあります。大木の根元でもときどき見つかります。

《 ほぼ安全レベルだが、部分的にやや線量の高いところもある 》

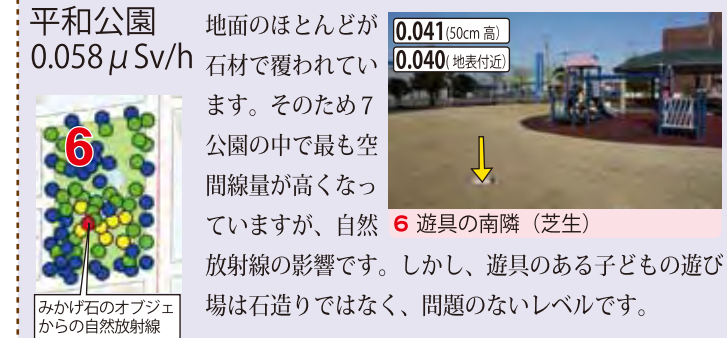


**ホットスポットを発見したら** 公園などで0.23  $\mu\text{Sv/h}$ 以上の場所を見つけたら、すぐに自治体に通報します。通常は0.23  $\mu\text{Sv/h}$ 以上なら除染してくれます。秩父市や加須市は1  $\mu\text{Sv/h}$ 以上ですが、多くの自治体は地表付近0.23  $\mu\text{Sv/h}$ の線量で除染します。自宅で発見した場合、理不尽な話ですが、自己責任・自己負担で除染するしかないようです。

《 子ども遊び場は安心レベル、駐車場に注意したい 》



羽生市街地7公園



旭町公園 0.045  $\mu\text{Sv/h}$

風の公園 0.047  $\mu\text{Sv/h}$

前谷公園 0.047  $\mu\text{Sv/h}$

大天白公園 0.046  $\mu\text{Sv/h}$

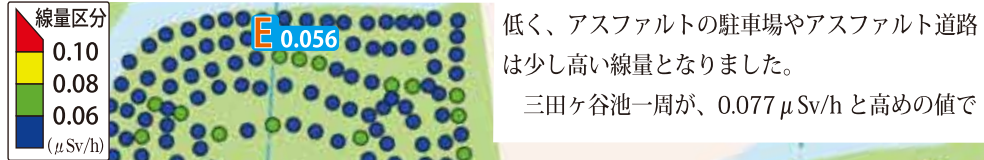
山の公園 0.049  $\mu\text{Sv/h}$

大和町公園 0.045  $\mu\text{Sv/h}$

**自宅を除染する** 除染したい場所を、放射線計で測定しながら、納得できる線量になるまで土を削ります。深さは5~10cm程度? 厚手のビニール袋(大)を二重にして、これに汚染土を入れます。ビニール袋の汚染土はそのまま、穴を掘って30cm以上の深さに埋めます。このとき出た土の一部は除染部分に覆土し、残りは汚染土の埋設に使います。

《安心して遊べる水辺の公園》

大変広い公園で2日間かけて測定しました。全体平均0.053  $\mu\text{Sv/h}$ と埼玉北部の平均的線量の公園です。下表に公園内の空間線量をエリア別にまとめました。地表が土、芝生の場所は線量が比較的低く、アスファルトの駐車場やアスファルト道路は少し高い線量となりました。



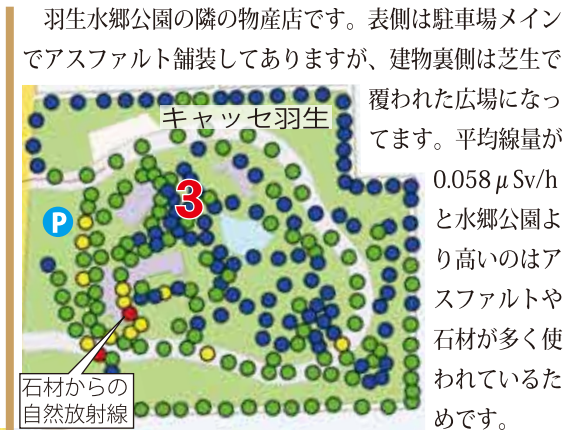
測定範囲	平均線量
A 北駐車場	0.065
B 芝生広場	0.043
C 水族館庭	0.046
D 正門・こもれびの森・休憩舎	0.044
E 北側水鳥の池	0.056
F 三田ヶ谷池一周	0.077
G 水辺の草原・健康広場	0.046
H お花見広場	0.052
I 多目的広場	0.050
J 南子ども広場	0.055
K かたらいの丘花広場	0.049
L 南駐車場	0.066
M 南駐車場西	0.046
全体平均	0.053

測定データ 日時：2015年1月29日 10:10～16:30 天気：晴れ北、東の風1～2m / 2月19日  
方法：移動測定＝地上50cm高、定点測定(60秒間の平均)＝50cm高、5cm高

**雨風で移動するセシウム** セシウムは微細な土と結合した状態で風雨によって移動します。2015年9月現在、セシウムは3.11原発事故当時の56%に減っています。広い駐車場の隅の排水の悪い場所では、雨が降るたびに放射線量が高くなる傾向にあります。セシウムは、中央より隅、高い所より低い所、乾燥した所より湿った場所で濃縮されます。

《子ども遊び場は安全レベル、石材の舗装面は自然放射線》

羽生水郷公園の隣の物産店です。表側は駐車場メインでアスファルト舗装してありますが、建物裏側は芝生で覆われた広場になっています。平均線量が0.058  $\mu\text{Sv/h}$ と水郷公園より高いのはアスファルトや石材が多く使われているためです。



ですが、これは自然放射線の影響で、原発事故由来の放射能ではありません。休憩舎の西では、国の除染基準0.23  $\mu\text{Sv/h}$ を超えるマイクロホットスポットを発見しましたが、現在は除染が完了しています。



ホットスポットの発見と除染

1月29日の測定でスポットを発見、直ちに公園管理事務所に連絡しました。管理事務所は立ち入り禁止にして、県の指示で3週間後に除染しました。職員がシャベルで約10cmの深さに花壇の周囲の土を取り除き、その後を砂で覆土しました。除染後の数値は0.079  $\mu\text{Sv/h}$ で除染は成功。汚染土は人の入らない場所に埋められ、そこを杭とロープで立ち入り禁止としました。



測定データ 日時：測定日：2015年2月24日 11:30～12:30 / 天気：くもり 東の風1m  
方法：移動測定＝地上50cm高、定点測定(60秒間の平均)＝50cm高、5cm高

**年間1mSv** 法律が定めた年間被ばく量の限度で、世界基準もこれです。日本政府はあれこれ数字を操作して、0.23  $\mu\text{Sv/h}$ 以下なら大丈夫としています。単純に1mSv÷365日÷24時間＝0.114  $\mu\text{Sv/h}$ と計算し、当会はこれ以上の場所を「危険」と判断します。同じ被ばく量でも、子どもは大人の10倍も100倍も大きなダメージを受けます。

《土の道より、アスファルトの道の空間線量が高い 埼玉の傾向》

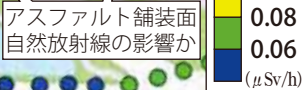
田んぼの中にある中規模公園で、大きなアリーナがあり利用する人は多いと思われます。ここで放射能汚染の特徴的な現象が確認できました。駐車場は、アスファルトと砂利が敷かれた土が、半々になっています。移動測定で、アスファルトと砂利・土と明確に違いが出ました。アスファルト舗装面は、セシウム由来の場合と自然放射線由来の場合、その両方の場合と判断が難しいのです



0.052(50cm高)  
0.060(地表付近)

1 釣り池手前 (土・芝生)

が、古い舗装だとセシウム濃縮が多いようです。

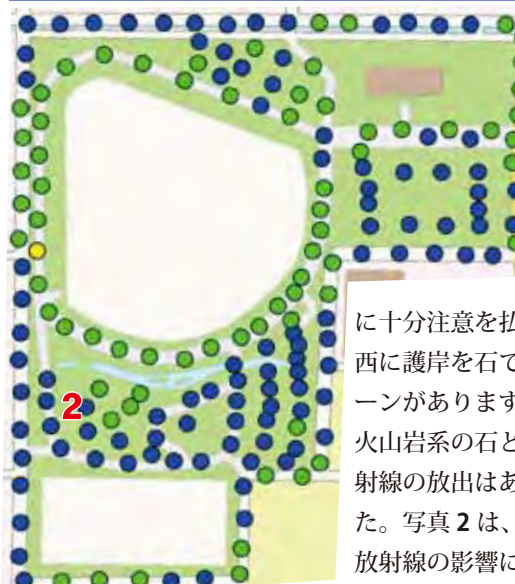


線量区分  
0.10  
0.08  
0.06  
( $\mu\text{Sv/h}$ )

アスファルト舗装面  
自然放射線の影響か

田ヶ谷サン・スポーツランド

移動測定平均 0.051  $\mu\text{Sv/h}$



ここは、福島以後の造園について示唆を与えてくれる公園だと思います。全体的にはそれほど高い空間線量ではありませんが、花崗岩の多用や、細かな白い砂利が子ども広場に撒かれていたり、自然放射線の影響を強く受ける造りとなっています。今後の公園設計や造園について、石の使い方に十分注意を払ってもらいたいと思います。野球場の南に東西に護岸を石で固めた親水ゾーンがあります。この石は、火山岩系の石と思われ自然放射線の放出はありませんでした。写真2は、白い砂の自然放射線の影響による値です。



0.071(50cm高)  
0.074(地表付近)

2 子ども広場遊具 (土・白砂)

測定データ 騎西総合公園 日時: 2015年4月16日 15:20~16:50 / 天気: 晴れ 微風 / 地上50cmを測定  
田ヶ谷サン・スポーツランド 日時: 2015年4月12日 9:30~10:40 / 天気: 晴れ 無風 / 地上50cmを測定

**土壌検査** 土を食品のように検査し、放射線量はBq/kgで示されます。埼玉北部の平均は100Bq/Kg前後と思われますが、空間線量には500Bq/kg以上でないと反映せず、5cm高0.05  $\mu\text{Sv/h}$ で300Bq/kgという事例もありました。また、同じ場所でも深さによっても値は変化します。その土地の1点だけを測定しても、全体像は見えないものです。

《ふれあいの森 ラッパ遊具の周辺は要注意！》

地球環境に特化した大規模施設で、モニタリングポストも設置されています。駐車場から種足ふれあいの森へ入る辺りで、子どもたちが走り回るような場所に、土砂などを埋め戻したと思われる場所が3箇所ありました。どれも高い放射線を記録しました。この日の測定では、ラッパ遊具の手前が地表付近で0.23  $\mu\text{Sv/h}$ を超えていて、この上を子どもたちが乗ったり転げたりすることを考えると、とても心配になります。加須市の場合はこの数値では除染しません。

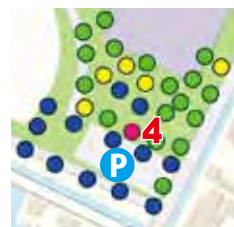


0.131(50cm高)  
0.240(地表付近)

3 種足ふれあいの森 遊具 (土・枯葉)

大利根運動公園

移動平均 0.060  $\mu\text{Sv/h}$



子どもの広場がやや高い感じですが。自然放射線の影響もありますが、写真4の地点は明らかにセシウムの汚染です。熊谷市や行田市の除染基準を超える線量ですが、加須市の局所的な汚染の除染基準は1  $\mu\text{Sv/h}$ で、そのままの状態です。利用者は要注意！



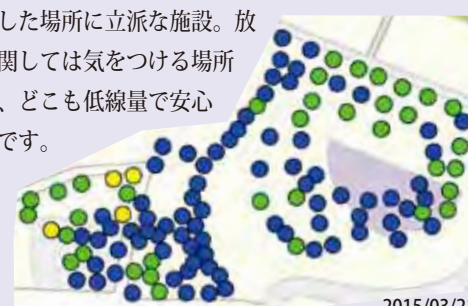
0.158(50cm高)  
0.258(地表付近)

4 駐車場との境の植え込み (土)

加須未来館

移動平均 0.052  $\mu\text{Sv/h}$

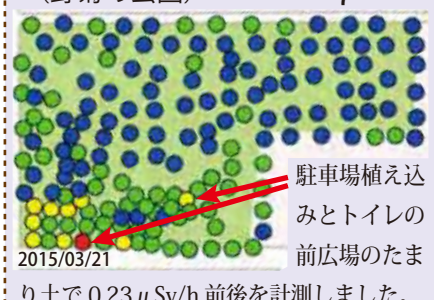
広々とした場所に立派な施設。放射能に関しては気をつける場所はなく、どこも低線量で安心な公園です。



2015/03/21

ふれあい公園 (野菊の公園)

移動平均 0.055  $\mu\text{Sv/h}$



駐車場植え込みとトイレの前広場のたまり土で0.23  $\mu\text{Sv/h}$ 前後を計測しました。  
2015/03/21

測定データ 埼玉県環境科学国際センター 日時: 2015年4月12日 11:00~13:30 / 天気: 晴れ 無風 / 地上50cm測定  
大利根運動公園 日時: 2015年3月21日 14:20~14:50 / 天気: 晴れ 北西風1m / 地上50cm測定

**放射線測定器について** エアカウンターは半導体式、テラやRADEXはガイガー管式、当会のHSFやホリバはシンチレーションです。測定の条件にもよりますが、ガイガー管式のテラやRADEXは、HSFやホリバの倍くらいの数値を示すことがあります。HSFの値はホリバよりも1~2割低い値。シンチレーションでも、DC-100などは2万円程度です。

《園内は低線量だが、駐車場のホットスポット……立入り禁止のロープ付近に注意》



測定エリア	平均線量
A	メイン駐車場 0.071
B	入口・フリーマーケット会場 0.055
C	子ども自転車乗り場 0.070
D	臨時駐車場 0.044
E	グランドゴルフ場 0.044
F	プール・パターゴルフ 0.052
G	川の向こうの広場 0.038
H	駐輪場・鯉の森 0.054
I	芝生広場 0.045
J	コバトンの迷宮 0.050
K	鯉の池全体 0.051
L	ふるさとの森・せせらぎ 0.054
M	バーベキュー場 0.056
N	ふれあいの森～野鳥の池 0.046

はなさき水上公園は、市の南東にあるプールを中心とした公園です。プール以外にも芝生広場やボートの乗れる大きな池など施設の充実した県営の公園です。園内の平均線量は  $0.053 \mu\text{Sv/h}$  と比較的安く子どもの遊び場に関しては、ほぼ問題ありません。ただし、写真2の「おもしろ自転車乗り場」がやや高め線量です。駐車場同様、舗装部分の排水に問題があるのかもしれない。

《広範囲なホットスポット発見》 地図中5で示した駐車場の縁で除染基準  $0.23 \mu\text{Sv/h}$  超のホットスポット発見、直ちに管理事務所に通報しました。管理事務所は県の指示で、一部を除染しましたが、駐車場の西の端から200mは除染せず、そのままの状態でもロープを張って立入り禁止にしました。しかし、杭は最も汚染の高いアスファルトと土の境に打ち込まれており、ロープぎわは高線量です。ここには子どもを近づけないよう注意してください。

《加須市の除染基準は  $1 \mu\text{Sv/h}$ 》

市内の別の公園でも、局所的ですが、 $0.23 \mu\text{Sv/h}$  超の場所が何ヶ所か見つかりました。同行の加須市民が市役所に通報しましたが、対応を断られたそうです。県は  $0.23 \mu\text{Sv/h}$  で除染しています。加須市の除染基準の見直しが強く望まれます。



立入り禁止のロープの下が最も高線量。ロープぎわに注意してください。

### HSFについて

GPS 連動のシンチレーション式放射線計です。移動しながら放射線を測定し、その測定値をGPS情報とともに保存します。HSFは、正確な測定値を出すことが、環境省福島環境再生事務所の実証試験報告書で証明されました。また、グラフ表示によって、計測した値がセシウムか自然放射線かを簡易的に判断できます。



### 数値をどう判断するか？

放射能は、どんな微量であっても「避けられるものは、できるだけ避ける」が原則です。

- $0.230 \mu\text{Sv/h}$  国の除染基準。秩父市・加須市などの局所的除染基準は  $1 \mu\text{Sv/h}$ 。
- $0.114 \mu\text{Sv/h}$  国際放射線防護委員会の一般人年間被ばく限度  $1\text{mSv}$  の1時間あたりの値。
- $0.055(0.048) \mu\text{Sv/h}$  熊谷(加須)市のモニタリングポストの2015年8月の月平均です。
- $0.035 \mu\text{Sv/h}$  福島第一原発事故前の埼玉は  $0.035 \mu\text{Sv/h}$  だったというデータがあります。

### 支援のお願い

HSF 市民測定所・深谷は、既成の団体とは一切関係なく、市民ボランティアと市民からの寄付で運営しております。皆様のご支援をよろしく申し上げます。

● ゆうちよ銀行：普通 10390-82989741 口座名：HSF 市民測定所・深谷 (イイエイファミンケイジ ョウカ)

《他行からは 店名〇三八(セ)ロサチ 普通 8298974》

**薪ストーブの灰** 東北・関東地方の薪の燃焼灰から高い放射能が検出され、環境省も「安全性が確認された場合を除き、庭や畑にまくことなく」と通達を出しています。薪は灰になるとセシウムが200倍に濃縮されます。薪(ペレット)ストーブユーザーは必ず灰の検査をするべきです。400Bq/kg以上の灰は、畑に撒けません。

**3.11 市民ネット深谷** 2013年7月に誕生した市民グループです。既成の組織とは関係ありません。2011年3月11日に発生した福島第一原発事故に危機感を持つ市民の集まりです。子どもたちを放射能から守り、原発のない社会の実現を目指して活動しています。HSF 市民測定所・深谷はこのグループ内の有志によって運営されております。